

2026年1月29日

「J-STAGE 類似性チェックサービス」試用運用の継続について

平素より学会誌の編集・査読にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、当会学会誌では、論文の適正な査読体制の強化を目的として、昨年より剽窃チェックツールを試用導入し、査読時の参考情報として活用してまいりました。

この1年間の試用運用を通じて、一定の有用性が確認された一方で、判定結果の取り扱いや総合的な判断の在り方など、引き続き検討を要する点もあることから、今後もしばらくの間、現行の形で試用導入を継続することといたしました。

本ツールの結果は、あくまで査読・編集上の判断材料の一つとして位置づけており、最終的な採否につきましては、従来どおり査読者および編集委員会による総合的な判断に基づいて決定いたします。

なお、当面は現行の形で試用運用を継続いたしますが、運用方針に変更が生じた場合には、改めてご報告いたします。

会員の皆様におかれましては、本趣旨をご理解のうえ、引き続き適切な論文投稿および査読へのご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

学会誌編集委員長 山本達郎